

会長に就任して

日本臨床泌尿器科医会
会長 清原久和

令和2年12月23日神戸市で開催された日本臨床泌尿器科医会総会で本医会第4代会長に選任いただきました清原久和です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、泌尿器科診療以外に発熱外来などのコロナ診療でご苦労されている先生方に心よりエールを送らせていただきます。

本会は1998年鹿児島市で開催された日本泌尿器科学会総会時、臨床泌尿器科学の発展と普及、ならびに泌尿器科医の生涯にわたる研鑽を通じてその質と社会的評価の向上、経済的基盤の強化に寄与することを目的として、この目的に賛同された大学教授、病院勤務医、開業医の先生方が発起人となり設立されました。本会は事業として主に保険医療に関する問題について取り組んでまいりました。

副会長の斎藤忠則先生を先頭に、2年に1度の保険改定への取り組み、全国社保国保審査委員懇談会の開催、懇談会の合意事項を含み編集された「泌尿器科保険診療の手引き」の発行、日本泌尿器科学会総会、地方総会の保険講習あるいは地方医会での保険講習に携わってまいりました。保険診療以外については日本泌尿器科学会オフィスウロロジー部会へ参画し、男女共同参画での女性泌尿器科医への取り組みの集会、また日々の診療での問題を本音で議論する「臨床検討会」を全国各地で開催してまいりました。

4年前には20周年式典、祝賀会を東京の明治記念館で、日本医師会副会長 今村聡先生、国会議員で医療行政に精通された鴨下一郎先生、三ツ林裕巳先生、羽生田俊先生、自見はなこ先生、各医会代表者の先生方々を来賓にお迎えして開催いたしました。参加者は約200名でした（詳細はHPより会報第52号を参照してください）。

本会初代会長は戦前若者達の憧れの的、海軍兵学校の出身でもあり、尿路性器外傷の豊富な経験をお持ちの大阪市立大学教授 故 前川正信先生で、当初は手弁当で会を運営されたと聞いております。第2代会長は中医協の下部組織である医療技術評価分科会会長をされ厚労省保険局に太いパイプを持っておられた昭和大学教授 故 吉田英機先生で、近年の泌尿器科手術の保険収載と適正な保険点数設定に貢献されました。第3代会長は元福岡市の医師会長で日本医師会診療報酬検討委員会委員を務められた 故 宮崎良春先生で、日本医師会への繋がりを開拓されました。その後この委員職は私に引き継がれ、現在は副会長でみはま病院理事長の正井基之先生に引き継がれています。

さて第4代会長である私の略歴は欄外に記載しますが、公立病院勤務で地域医療を支える立場で定年を迎えました。現在73歳という年齢より見て1期だけのショートリリーフになると考えております。3年前の理事によるワークショップでは本会の事業を明確にして汗をかくための作業部会を作成し規約に収載しましたが、残念ながら社会保険部会以外は全国組織であること、コロナ禍の影響などであまり機能しておりません。幸か不幸かコロナ禍でweb会議が容易にできるようになりましたので、事務局にはお世話をおかけしますが少しでもweb会議を開く中でコミュニケーションを図り建設的な成果を出していただければと考えております。社会保険部は保険委員会をwebで4回しております。

直近で取り組むべき仕事はまずこの2年間指名されている医会代表者会議の当番医会としての作業であります。また、全国組織であること改めて認識して各地域の泌尿器科医会の活動状況をホームページでご報告いただいて、まず全国の勤務医、開業医の情報の共有を図ればと考えております。

現在本会理事会は大学教授、病院の勤務医、開業医で構成されており、理事の3分の1が社保か国保審査委員であります。また今年の理事改選で2人の女性理事が誕生いたしました。これらの体制で多岐にわたる分野の泌尿器科診療の問題の解決に微力ではありますが取り組みたいと思います。